

難治性疾患克服研究の対象となっている123疾患について主任研究者； 中村 耕三疾患名； 広範脊柱管狭窄症

1. 初代研究班発足から現在までの間の研究成果について(特定疾患の研究班が独自に説明・開発し、本研究事業として公表したもの。なお、原則他の研究事業等に依存していないもの。)

(1) 原因究明について(画期的又は著しく成果のあったもの)

	時期 及び 班長名(当時)	内容	備考
1	平成 2 年黒川 高秀	発症年齢・障害部位・重症度などの調査が行われた	

(2) 発生機序の解明について(画期的又は著しく成果のあったもの)
なし

(3) 治療法(予防法を含む)の開発について

ア 発症を予防し、効果があったもの

なし

イ 完治に至らしめることはできないが、進行を阻止し、効果があったもの

	時期 及び 班長名(当時)	内容	備考
1	平成 3 年黒川 高秀	早期の手術治療が良好である	

ウ その他根本治療の開発についてもの
なし

2. 「1」以外で、国内、国外を問わず、研究成果の現在の主な状況について

(1) 原因究明について(画期的又は著しく成果のあったもの)

	時期	内容	文献
1		変性性狭窄群における椎間板変性の候補遺伝子の解明	(1) Seki S, et al. 2005 Nat Genet

2		先天性狭窄群の代表である軟骨無形成症の原因遺伝子 (FGFR3)の解明	(2) Shiang R, et al. 1994 Cell
3			

(2) 発生機序の解明について(画期的又は著しく成果のあったもの)
なし

(3) 治療法(予防法を含む)の開発について

ア 発症を予防し、効果があったもの

なし

イ 完治に至らしめることはできないが、進行を阻止し、効果があったもの
神経除圧手術。

ウ その他根本治療の開発についてもの

なし

3. 現時点において、次の事項について残された主要な課題及び今後の研究スケジュールについて

(1)原因の解明について

	課 題	解決の可能性	今後の研究スケジュール
1	椎間板変性を来たすさらなる候補遺伝子の解明	あり	未定
2	軟骨無形成症以外で先天性狭窄を来たす疾患群の遺伝子解析	あり	未定
3			

(2) 発生機序の解明について

	課 題	解決の可能性	今後の研究スケジュール
1	変性性狭窄群における椎間板変性の候補遺伝子による変性の機構解明	あり	未定

2	先天性狭窄群の代表である軟骨無形成症の原因遺伝子が骨格異常を来たす機構の解明	あり	未定
3			

(3) 治療法(予防法を含む)の開発

	課 題	解決の可能性	今後の研究スケジュール
1	椎間板変性を予防する遺伝子治療	あり	未定
2	胎児期での先天性狭窄群のスクリーニング	あり	未定
3			

4. 重症化防止対策について

大多数の患者に対して外来通院によって症状のコントロールが可能な治療法(重症化防止のための治療法)の確立

	重症化防止のための治療法確立について解決すべき課題	5年以内に解決できる可能性	解決不可能な場合の理由	左記理由を解決していくスケジュール
1				
2				
3				
4				
5				